



国労せんだい

No. 2607
2011年6月25日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

6・10	第9回執行委員会・第3回闘争委員会
6・11	第35回アスベスト対策委員会（郡山）
6・13	東日本本部団交（協約・協定）
6・14	団交（駅業務委託関係・再提案）
6・15	第2回地本選挙管理委員会
6・16	団交（駅業務委託・整理）

幹総でアスベスト見つかる

震災で落下 空調用ダクトのガasketから

破断面から飛散のおそれも

3月11日の震災により、新幹線総合車両センター内建造物の天井などに敷設されている空調用のダクトが落下したが、その接合部に使用されているガasket（パッキン）にアスベストが使用されていることが関係者の話で明らかになった。

それによれば、落下したダクトが撤去され、ビニールでラッピングされていた現物を見た組合員がアスベストの含有の有無を会社に問い質したところ、含有していると認めたというもの。



幹総内に山積みされたダクト。震災被災地の瓦礫の山のような。ビニールに覆われているが破れて穴もある。

会社は、「これは非飛散性アスベストであり、安全である」と答えているが、ダクトは通常の取り外しではなく、地震により落下したものであり、破断面があれば、そこから飛散するおそれは十分にあると推察される。

また、ラッピングされていたが、一部破損しているなど、その防護措置は十分とは言えないものであったという。

さらに、破損し落下したダクトについては処理が行われているが、他は残されており、現状ではアスベスト含有物が使用されていることには変わりはない。大地震については今後も予断を許さない状況にあり、速やかな交換や撤去が求められている。

地方本部はノンアスベスト化を会社に求めており、今後もアスベスト含有物の処理等に際しては、法に照

らした十分な対応と、アスベストを含有している建築物などの撤去と検証を今後会社にも求めていく。

参考

非飛散性アスベスト廃棄物の処理については、環境省より指導文書（環境産廃第0500330010号）が平成17年3月30日）が取扱いの技術指針として発せられている。

これは、飛散性のアスベスト（吹き付けによるもの）

本部が被災各県に義援金

震災関連情報

国労本部は、東日本大地震で甚大な被害を受けた岩手・宮城・福島・茨城の各県に義援金をおくる取り組みを実施した。この取り組みは、今回の震災で組合員がカンパの取り組みを実施し、被

災組合員はもとより、「採用差別事件の闘いを長い間支えて頂いた地域の被災者に対してもお見舞いを」という趣旨に基づいて実施されたもの。9日、本部田中副委員長と地本橋本委員長が宮城・福島両県庁を訪れ、それぞれ対応した副知事に対して見舞金を手渡した。

放射線に対する認識

被爆線量基準の意味

▼チェルノブイリ原発事故後、日米両政府は、25年間に渡り共同で人体に対する調査を継続している。

その結果、積算の被爆量が1000ミリシーベルト（以下mSv）を超えると90%以上の人が癌等の何らかの異常が発生することが判明したという。そこで日本政府は年間の被爆量の限度を1mSv以下と決定した。それは0歳の子供が100年間で100mSvになる量である。だが、原発事故後は100mSvを超えても、癌発生のリスクが0・5%増加するだけとし、「安全」を強調している。

▼福島原発の場合、1時間あたりに換算すると0・19マイクロシーベルト（以下μSv）以下でなくてはならないため、アメリカ政府の80km圏内での避難指示を出した根拠がここにある。

福島、郡山の現在の放射線量は時間あたり1・3μSv前後で、以前の基準では当然避難しなければならぬ区域になるため、防護服で働く原発作業員と同じ年間20mSv以下に基準を上げ、避難しなくてもいいことにしたとされている。だが、その基準においても3・8μSv超過箇所（ホットスポット）の存在が明らかになっている。

▼この状況から、福島県中通り地方の子供は既に1万人以上が会津地方及び県外へ避難しており、現在も続いている。JR社員でも子供だけ避難させた家庭も多く、こうした現状から郡山・福島の日常の屋外作業についても放射線量の把握が重要だ。今後会社とも早急に協議する必要がある。【歌】

心配なのは子供だけ？

5月末、福島県内のある職場に雪害の表彰授与のため会社幹部が訪れた。その際、社員との意見交換の場で、郡山在住の他労組の方が、「郡山は放射線量が非常に高い数値を示しており、線量計の購入をお願いしたい。また作業についても考慮する必要があるのでは」という主旨の話をした。

それに対し会社幹部は、「大人についてはそれほど心配する必要はない。甲状腺癌等も子供がほとんどで大人には報告されていない。そんなに神経質になる必要はない」という旨の話をした模様。他労組の方は納得がいかない様子だったという。

健康管理手帳取得の労苦を語る

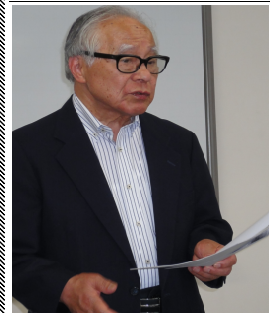
退職者から貴重な体験談

地本アスベスト対策委員会（中島対策委員長・佐藤副委員長）は、6月11日郡山市内ビックアイにおいて、第35回アスベスト対策委員



熱く語る舞木氏

会を開催した。同委員会は定期的に各支部への持ち出し対策委員会を開催しており、今回はOBの舞木秀幸氏と国井豊重氏から、それぞれの健康管理手帳の取得についての取り組みの経過と苦労話を交えた体験談から学ぶことを主体とした学習会となった。舞木氏は「JR病院でCT撮



穏やかに語る国井氏

影時「特発性間質性肺炎」と病名を告げられたが、どのような病気で原因は何かを聞いてもJR病院は答えな

『じん肺』と診断。『労基署に行け』と告げられ『健康管理手帳』取得に向け取組んで来た」と報告。申請書類の事業者記入欄にJR東に記入を申請したが「国鉄時代なので証明できない」と断られ、清算事業団に申請。丁寧に教えてくれ、JR東とは大違い。JR東の対応に今でも怒りが湧くと熱く述べられた。

また、国井氏は、鉄道退職者の会・郡山支部の機関紙「汽笛」のアスベストに関する記述を紹介し、「車両にアスベストが使用されていた事実を指摘し、また健康診断受診の経緯を」と報告。さらに朝日新聞の「元国鉄職員の皆様へ」と題する「石綿による健康被害に関して」の記事で「時効により遺族補償給付の支給を受ける権利が消滅した方に支給する請求の時期」が平成21年3月26日までか



貴重な体験談を熱心に聞き入る参加者

郡工支部が抗議集会

情報ピックアップ

行動日程

東日本本部組織対策オルグin郡山
7月1日（金）郡山ビックアイ 18時～
東日本本部組織対策オルグin仙台
7月2日（土）こころう会館 13時～

とが報告され、郡工支部組合員と一緒に闘っていく決意が表明された。集会は阿部支部執行委員による「集会宣言」の提案、採決、委員長のリードによる「団結頑張ろう」で散会となったが、客貨一体となった闘いで会社間格差をなくす運動を更に強めていかなければならない。

【郡工情報 6月22日付第726号から一部転載】

退職のお知らせ

5月31日付

折笠 由明さん
郡山信通 退職

佐藤 歳子さん
郡山駅連 エルダー

北田 博康さん
仙総車体 退職

長い間お疲れ様でした

脱原発 宮城でアピールのデモ 自然エネルギー政策への転換を訴える

6月12日、宮城県護憲平和センター総会が開催され、その終了後、原子力資料情報室の上澤千尋氏が、「福島第一原発事故と今後」と題して記念講演を行いました。

この講演は、宮城県護憲平和センター・平和労組会議・社民党県連合の共催によるもので、会場のハーネル仙台大会場にはあふれる程の人々の参加者があり、原発事故への感心の高さや不安の大ききの現れと受け止めました。

国労からは宮城県支部と仙総支部から多くの組合員に加えて退職者の会からも参加がありました。

講演の内容は大変興味深



多くの市民から共感を得たデモ行進

く、特に女川原発でも原子炉自動停止後に電源盤火災が発生し、冷温停止状態になり、福島第一原発事故の一手手前であったということでした。

またこの事実が一切明らかにされていないことに対しても、強い怒りと不安を大きく感じました。

講演終了後には、錦町公

園から一番町商店街を経由し仙台駅付近まで、脱原発と自然エネルギー政策への転換を訴えて、アピールのデモ行進を行いました。行進中に市民の皆さんから頑張れという声援や拍手の激励を受け、市民の皆さんも大きな不安や怒りを持っていると強く感じたところ

です。【昭】

貨物夏季手当妥結

昨年同様の低額回答

貨物会社は6月15日、「2011年度夏季手当の支払いに関する申し入れ（国労闘争12号）」に

委員長の挨拶、書記長の経過報告に続き、渡辺車体科分会長、本田装置科分会長代行から貨物と共に闘う決意表明を受け、当該分会である貨物分会を代表して、渡辺副分会長から闘う決意が表明された。

「国労として3ヶ月の要求を提出」「昨年の定期昇給半年延期の保障がされていない」「車両所長に対する夏季手当の申し入れ行動を行った」こ